

## 第1回群黎賞 受賞作品

### 海見島へ●浜田ゆり子

両翼の窓辺に離陸を待ちてをり温き鼓動は吾を眠らす

鳥よりも遠く頂き昇り来て屋久島のうへ一万メートル

爪跡のやうなる波たて沈みたる幾千の船 七島灘の見ゆ

「ヤマトから来られたのですか」と問はれたり島に嫁ぎしヤマトビト吾れ

あまみしま、阿麻弥島また雨見島 その名を付けたる古代人あり

翡翠色のサンゴ礁の上に降り立てばねつとり張りつく南風と島口  
ウギ畑を左に見つつ思案する豚骨、苦瓜、夕餉のしたく

壁へだて家守と眠る甘き夜の川辺にみつしり咲くサガリバナ

亜熱帯の湿度を好める蛇の子を三人産みたり山すその家

毒蛇は神、蝶は魂 海山に死者と生者のひしめく奄美

怒りもて森の奥処に殺す夢 毒蛇二匹を踏みしだきたり

「目をあけよ」痺るる体を覆ひくる太き声あり 妖怪の臭ひ

内臓に青黴の生える島なれば朝かぜ夕かぜ鼻より通す

透き通るクツカルの声尾をひきて緋色に染まる初夏の朝

遠き世のネリヤの国の見えるとふ浜辺に届く漂流物あまた

受賞の言葉——浜田ゆり子

奄美出身の男性と出会い、島に移住して36年が経ちます。奄美は透き通るブルーの海と、ネリヤカナヤ伝説で私を蘇らせ、また森に生きる巨大シダや毒蛇、妖怪譚などが心を震わさせてくれました。

仕事をするなかで、短歌という表現形式に出会えたことは、非常に幸運でした。三十一音という短詩が私に合っていたのかかもしれません。導かれるように「心の花」に辿り着き入会したのが、1年半前。奄美での日々を詠み、初めての15首連作に戸惑いながらも、この度「第一回群黎賞」を受賞する榮誉に恵まれました。審査員の皆様に、心より感謝申し上げます。今後も奄美をテーマに歌を詠んでまいります。よろしくお願ひいたします。

